

環境・安全報告書 2019



**ASAHI
YUKIZAI**

当社の 2018 年度の事業活動における環境・安全に対する取り組みと成果をご報告いたします。

CONTENTS

1. 環境・安全に対する基本姿勢
2. 環境保全への取り組み
3. 労働安全衛生および社員の健康増進への取り組み
4. 保安防災への取り組み
5. 製品安全への取り組み
6. 地域・社会との協調と共生

1. 環境・安全に対する基本姿勢

1) 環境・安全に関する経営方針

当社では、環境・安全に関する経営方針を定めており、その方針のもと環境・安全に関する構成要素ごとに目標を定め、達成に向けて社員一丸となり取り組んでいます。

理 念

当社は、環境保全・労働安全衛生・保安防災および製品安全を経営の最重要課題のひとつとして捉え、常に人や環境に優しい製品を開発、生産ならびに提供することを使命と認識し、事業活動を通して地球環境の保全と安全・衛生の確保に努めます。

方 針

環境保全と安全確保は事業活動の基本である。

●環境保全活動の推進

製品に関わるすべての事業活動を通して環境保全に貢献します。

●安全衛生活動の推進

安全教育や設備安全化および安全衛生管理を通して、労働災害の防止を図ります。

●健康の保持と増進

快適な職場環境の実現に努め、健康の保持と増進を図ります。

●保安防災活動の推進

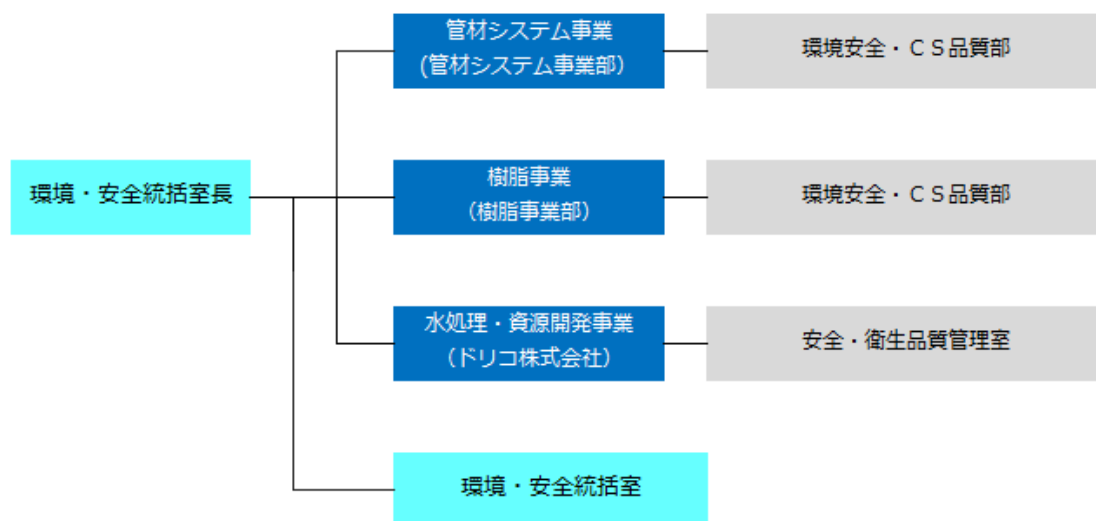
安定操業の維持と保安防災の向上に努め、従業員と地域社会の安全を確保します。

●製品安全の確保

製品の開発から廃棄に至るすべての段階において、技術向上と製品管理を徹底し、製品の安全性を確保します。

2) 環境・安全に関する社内推進体制

当社グループでは、環境・安全統括室長のもと環境・安全活動を統括しています。



3) 環境・安全に関する中期重点課題

当社グループでは、「環境・安全に関する経営方針」のもと2016～2018年までの中期重点課題を掲げました。中期重点課題に沿ってそれぞれの環境・安全に関する目標を設定し取り組んでいます。

項 目	中期重点課題
環境保全	① ゼロエミッションに向けた取り組み ② 地球温暖化防止対策活動（エネルギー原単位とエネルギー起源 CO2 排出量の削減） ③ 環境負荷化学物質の移動量と排出量の削減 ④ 地域貢献活動の推進
化学物質	① 生産活動における有害化学物質の適正な管理 ② 化学物質による環境負荷の低減 ③ 製品等に含有する有害化学物質の削減または全廃
安全衛生・健康	① 5 S 活動（整理・整頓・清掃・清潔・躰）の推進 ② リスクアセスメントによる設備・機械の本質安全化の追求 ③ 管理監督者の率先垂範による自主的な安全活動の実践 ④ 日常的な安全活動「教育、HH・K（ヒヤリハット・気がかり）、KYT（危険予知トレーニング）」、健康保持増進等の推進
保安防災	① 安定操業の維持のための保安防災管理のレベルの向上 ② 主要拠点での事業継続計画（BCP）の構築 ③ 緊急時のための効果的な実地訓練の実施

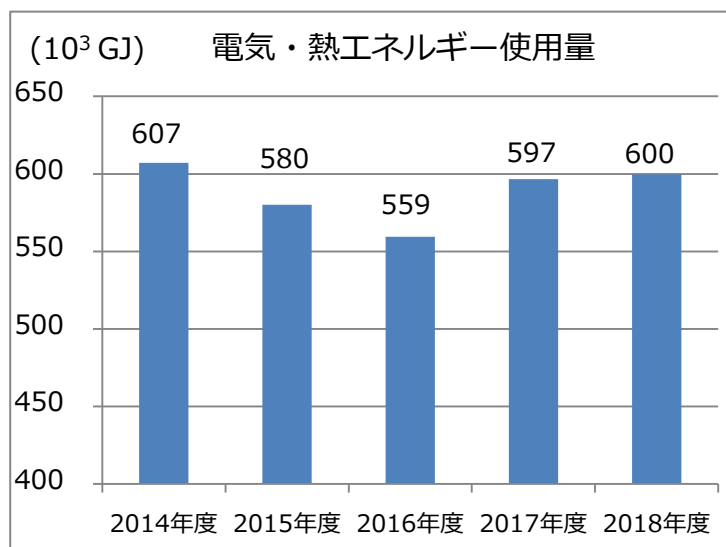
2. 環境保全への取り組み

1) エネルギー使用量

・電気・熱エネルギー使用量

省エネ法に基づいて算定した、当社の各事業場で使用する電気・熱エネルギーは約60万GJとほぼ横ばいで推移しています。

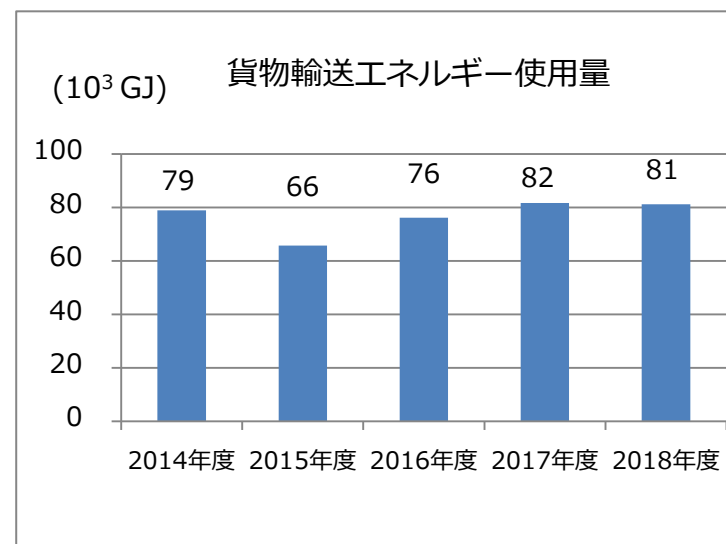
※エネルギー使用量は、換算係数によりGJへ換算。



・貨物輸送エネルギー使用量

省エネ法に基づいて算定した、当社の各事業場で使用する貨物・輸送エネルギーは約8万GJとほぼ横ばいで推移しています。

※エネルギー使用量は、換算係数によりGJへ換算。



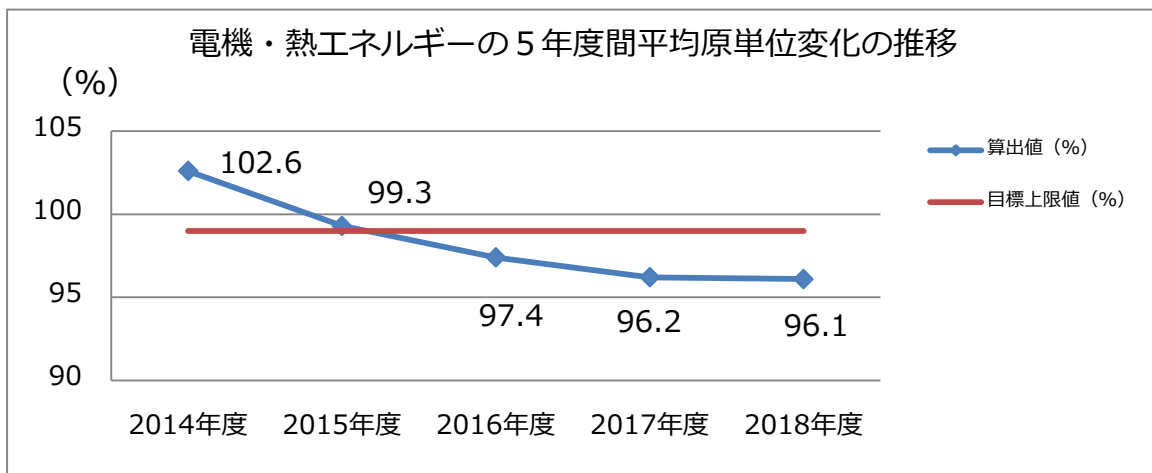
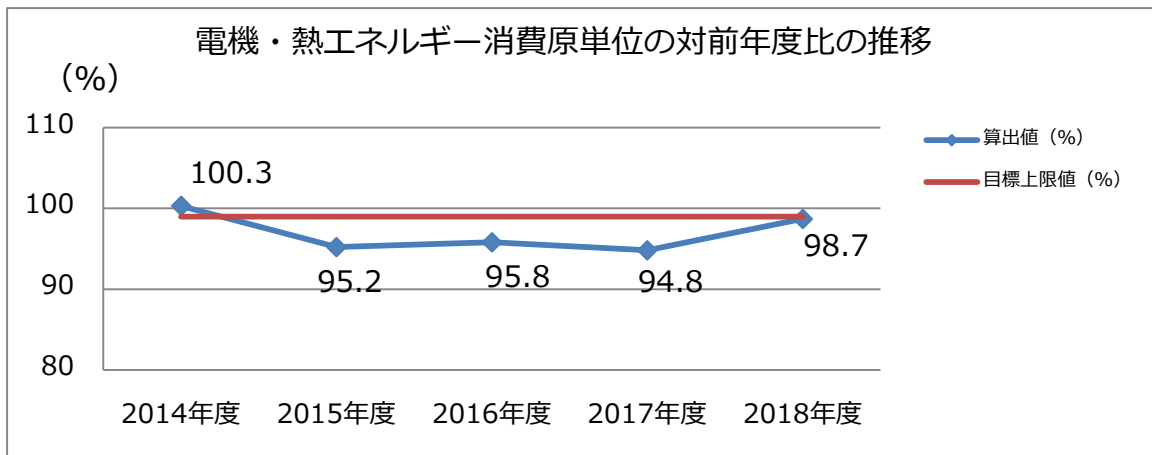
2) 省エネルギーと地球温暖化防止

・電気・熱エネルギー消費原単位の削減

当社は「エネルギーの使用の合理化に関する法律」(以下、省エネ法)における「特定事業者」に指定されており、九州経済産業局に毎年、電気・熱エネルギーの使用に係る中長期計画書と定期報告書を提出しています。特定事業者は電気・熱エネルギー消費原単位の対前年度比1%以上、及び中長期的にみた年平均1%以上低減への努力が求められています。

2018年度の原単位は対前年度比で約1.3%の改善となり、また5年度間平均原単位変化推移の目標値についても1%以上低減を達成しました。当社では省エネ関連投資を促進しており、省エネルギー設備の導入、LED照明への切り替え、エネルギー効率の向上を図ったことなどが改善効果につながっています。

2019年度も省エネ法の特定事業者に課せられた努力義務を果たせるよう電気・熱エネルギーの消費効率の改善に努めます。



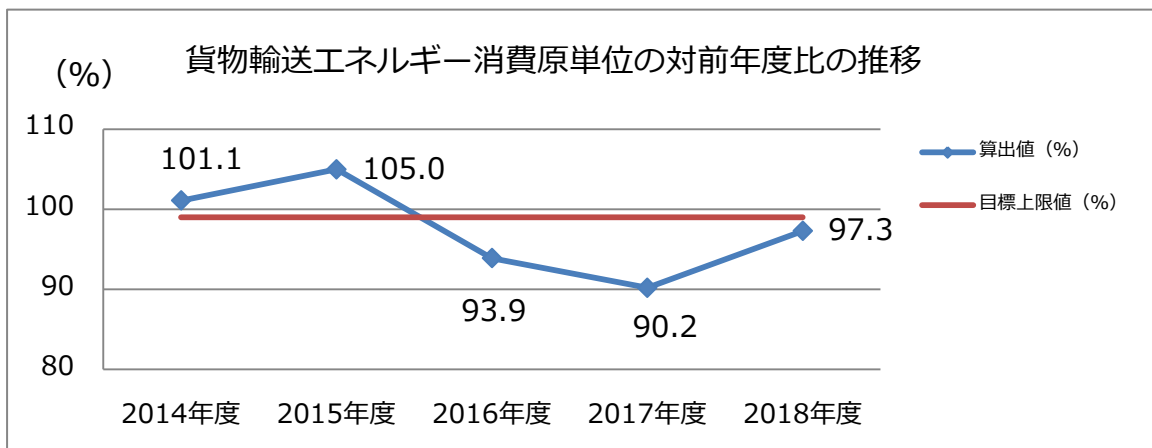
・貨物輸送エネルギー消費原単位の削減

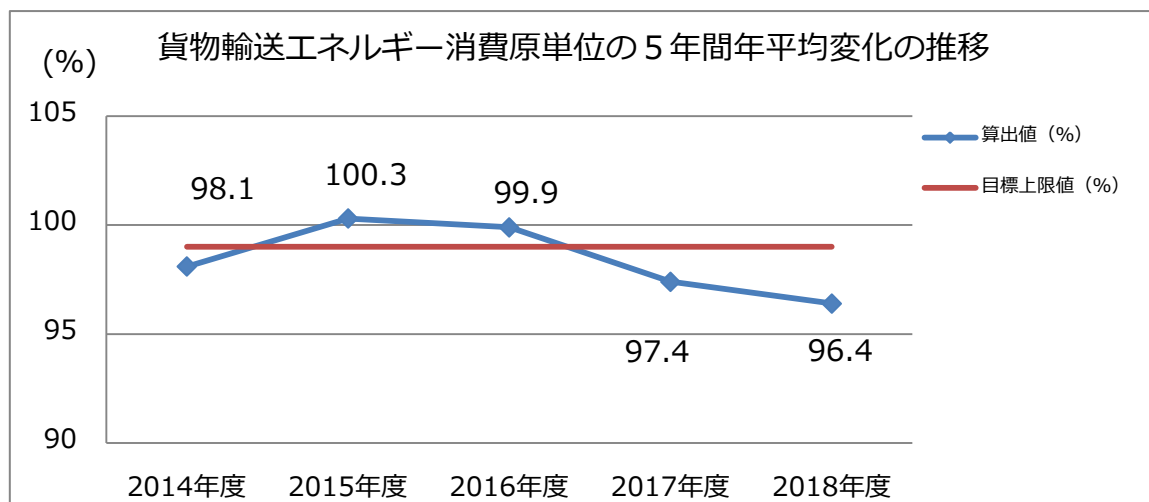
当社は省エネ法における「特定荷主」に指定されており、九州経済産業局に毎年貨物輸送エネルギーの使用に係る中長期計画書と定期報告書を提出しています。

特定荷主は貨物輸送エネルギー消費原単位の対前年度比1%以上、および中長期的にみた年平均1%以上低減への努力が求められています。

2018年度の原単位は対前年度比で約2.7%の改善となり、また5年間平均原単位変化推移の目標値についても1%以上低減を達成しました。これは当社の輸送量の多くを占める樹脂事業製品の積載率の向上、配送車両の大型化を図ったことが改善効果につながっています。

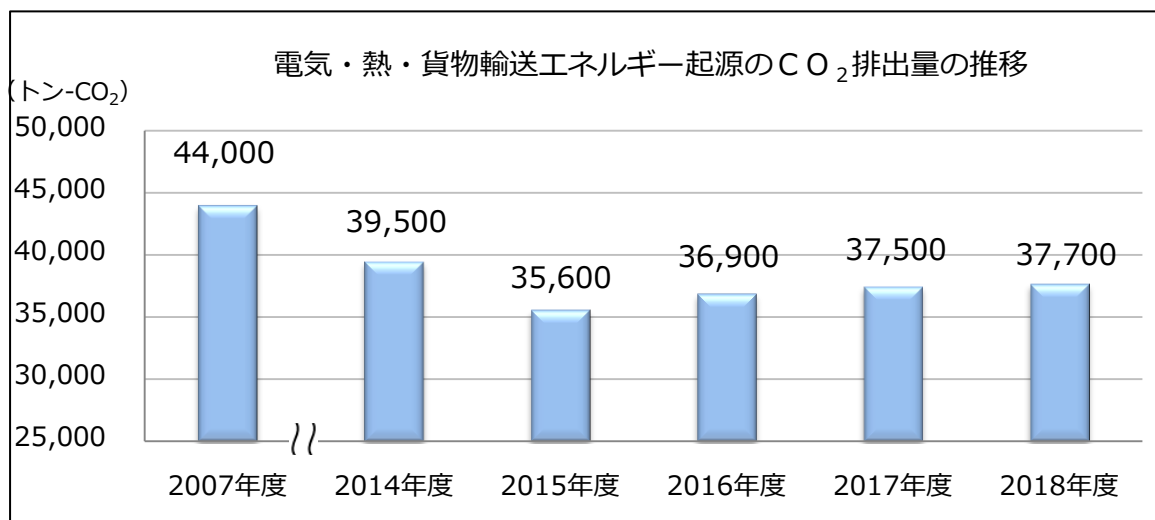
2019年度も省エネ法の特定荷主に課せられた努力義務を果たせるよう物流効率の改善に努めます。





・電気・熱・貨物輸送エネルギー起源 CO₂ 排出量の削減

省エネ法に基づく2018年度の当社の電気・熱・貨物輸送エネルギー起源CO₂の排出量は、当社目標である40,100トン-CO₂に対し、実績は37,700トン-CO₂でした。2017年度と比べわずかに増加しましたが、その理由は生産量・販売量の増加によるものです。ただし設備に使用する燃料の油種変更、高効率な設備への変更、自治体主催のCO₂削減の取り組み、及び物流の効率化など積極的な省エネ活動が有効に機能したことでその増加は抑えられています。

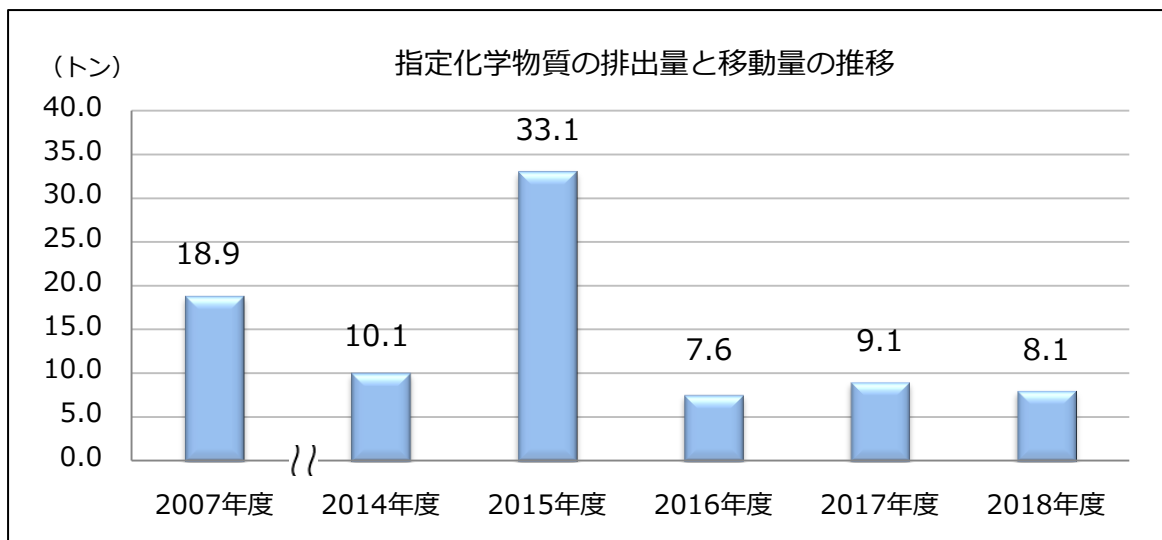


3) 環境保全

・指定化学物質の排出量、移動量及びその低減対策

化学物質管理促進法により指定されている化学物質の当社における排出量及び移動量は、2017年度と比べ2018年度は約11%減少しました。

当社は環境化学物質を含む原材料をより環境負荷の小さなものへ切り替えを進めており、今後も環境負荷化学物質を適正に管理すると共に排出量・移動量の削減に努めます。



※ 2015年度の大幅な増加は樹脂事業製品の不回転在庫を産業廃棄物として一括処理したことが主な要因であり一時的な増加でした。

P R T Rに基づき当社が管理している指定化学物質

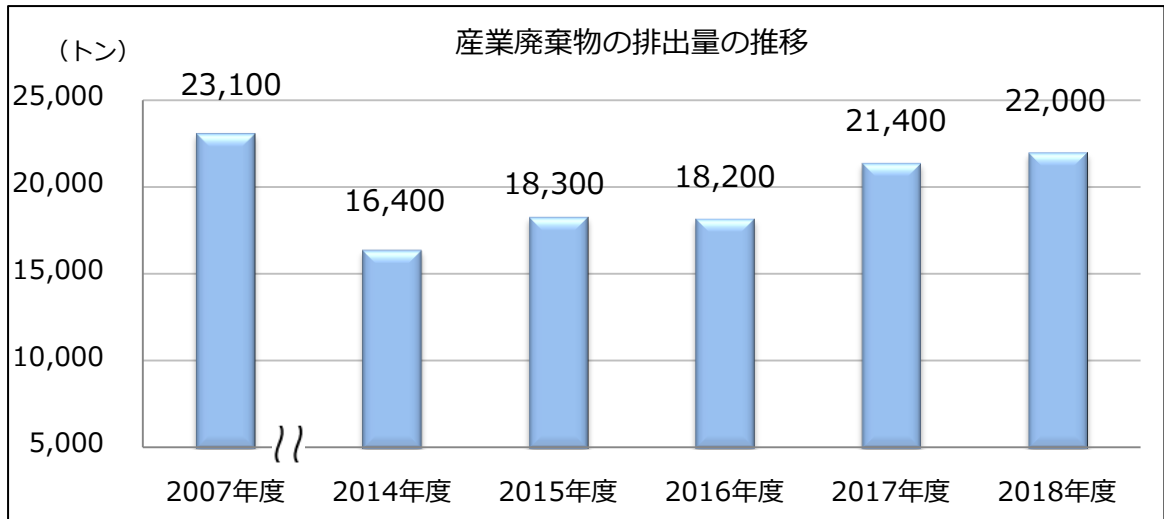
工場	指定化学物質名称
延岡工場	有機スズ化合物、鉛及びその化合物、アンチモン及びその化合物、ヘキサメチレンテトラミン、フェノール、ジシクロペンタジエン、メチレンビス(4,1-フェニレン)=ジイソシアネート
愛知工場	亜鉛の水溶性化合物、ビスフェノール A、クメン、クレゾール、1,4 ジオキサン、ヘキサメチレンテトラミン、トリエチルアミン、1,2,4 トリメチルベンゼン、1,2,5 トリメチルベンゼン、ナフタレン、フェノール、ホルムアルデヒド、メチルナフタレン、メチレンビス(4,1-フェニレン)=ジイソシアネート、リン酸トリ-ノルマル-ブチル、エチレングリコール、DMF、ダイオキシン類
栃木工場	ヘキサメチレンテトラミン、亜鉛の水溶性化合物、有機スズ化合物、鉛及びその化合物、ダイオキシン類
広島工場	ヘキサメチレンテトラミン、ダイオキシン類

※ PRTR とは、化管法により指定されている化学物質が、どのような発生源から、どれくらい環境中に排出されたかあるいは廃棄物に含まれて事業所の外に運び出されたかというデータを把握し、集計し、公表する仕組みです。

・産業廃棄物の総排出量

当社は産業廃棄物を削減するための代表的な取り組みである4 R（抑制・削減・再利用・再資源）により、産業廃棄物の総排出量の削減と発生した産業廃棄物の有効利用に努め、さらには総排出量から単純（埋立）処分される産業廃棄物の削減（ゼロエミッション）を推進しています。

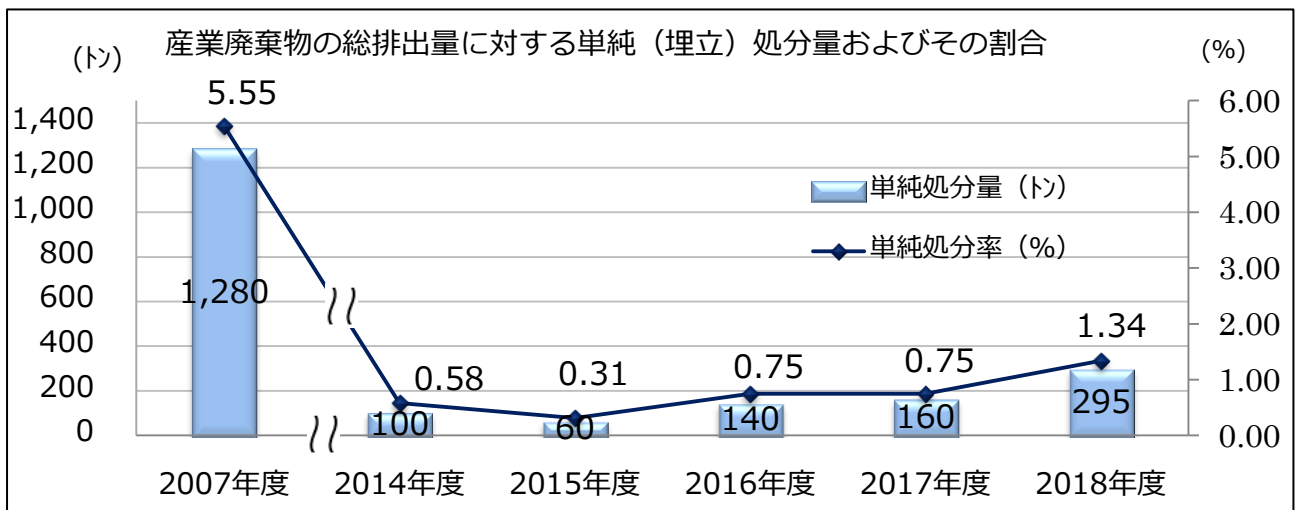
2018年度の総排出量の実績は22,000トとなり、2017年度と比べて約2.8%の増加となりました。理由は産業廃棄物発生の多くを占める樹脂事業製品の好調な業績に伴うものですが、産業廃棄物は各工場におけるISO14001の環境目標にも設定しており、更なる廃棄物の排出量抑制に努めています。



・産業廃棄物の総排出量に対する単純（埋立）処分量

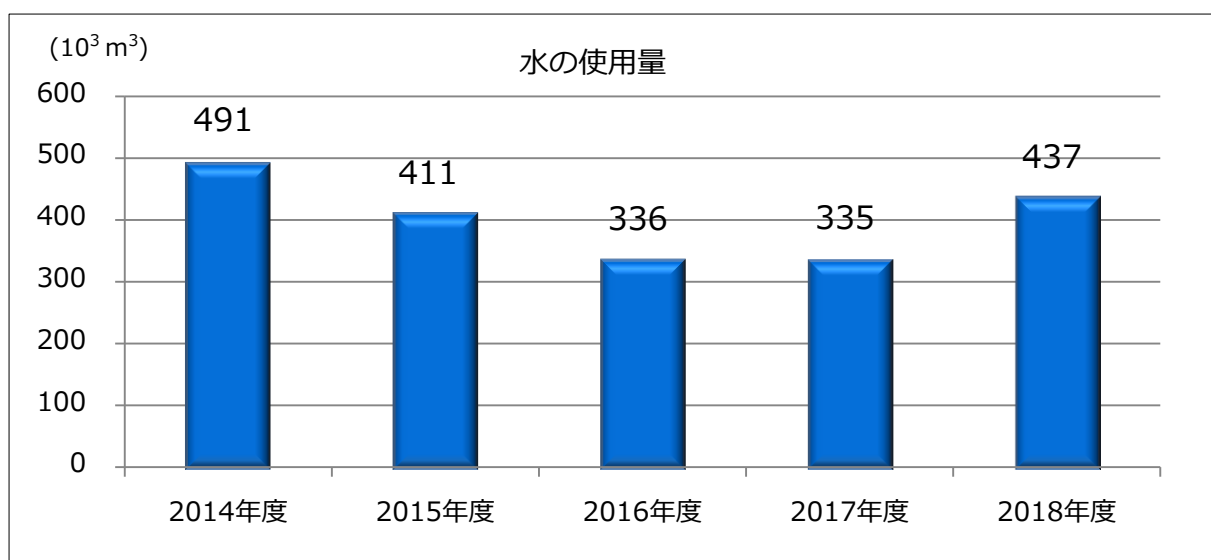
2018年度の単純（埋立）処分量、及び産業廃棄物総排出量に対するその割合は、2017年度に比べ、約80%増加しましたが、理由は生産量の増加と有価物として処理できた品種の減少によります。

単純（埋立）処分量の低減等に向けた当社の主な取り組みとしては、産業廃棄物を細かく分別することで可能な限り有価物化すると共に、市場での有効利用のニーズに向けた取り組みを推進し残った廃棄物は焼却処分を実施しています。今後もさらに施策を精査し産業廃棄物の総排出量に対する単純（埋立）処分量の割合を1%以下に抑えるよう努めます。



・水資源の保全

地球温暖化に伴う水資源の重要性が高まっている中で、当社も水資源の節約の取り組みを実施しています。当社の工場等で使用する水には工業用水や上水道がありますが使用比率が高い水は工業用水です。特に管材システム事業の主力工場である延岡工場の主な用途は設備を冷却するための冷却水であるため、生産量の増加に伴い2018年度は2017年度に比べ約30%増加しました。しかしながら、これまでの循環水再利用の取り組みなどにより基準の2014年度対比では約11%の削減となっており今後も効率的な運用により水資源の保全に努めます。



・LEDへの切り替え

当社の製造工場では環境保全と経費削減の一環として照明のLEDへの切り替えを2017年度以降計画的に進めています。

管材システム事業部で約85%、樹脂事業部は約70%の取替えが行われ、従来の照明と比較し70%の省エネ効果が得られました。さらに明るく、発熱が少なく、長寿命という効果も得られています。

将来的には照明100%のLED化を目指しています。

3. 労働安全衛生および社員の健康増進への取り組み

1) 安全衛生活動の取り組み

・安全衛生活動の方針

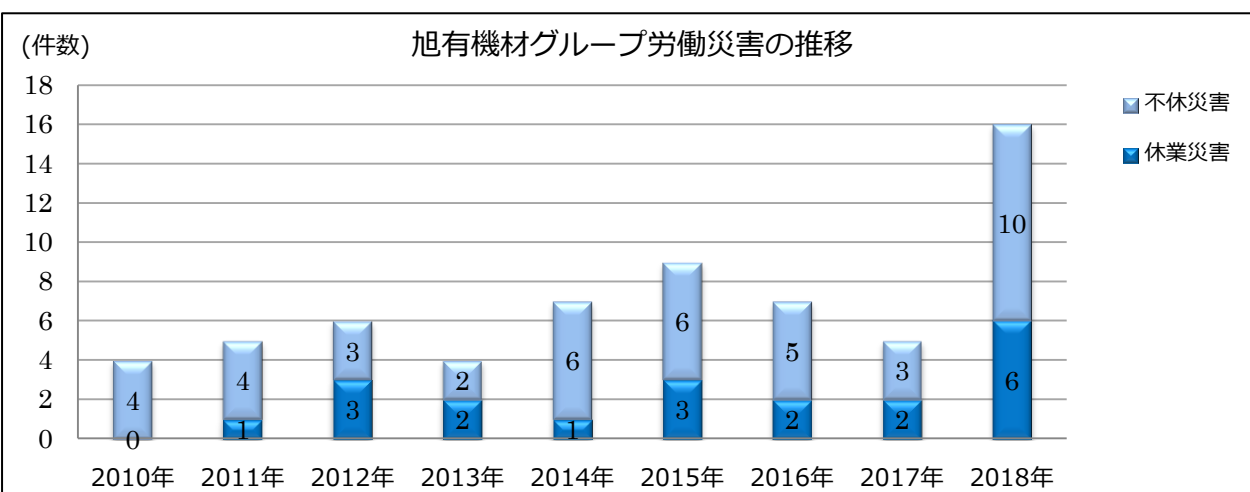
「無事故・無災害」は経営者並びに管理監督者の使命であるとの認識のもとで、必要な経営資源の積極的投入及び率先垂範の励行により、「誰もが安心して健康に働くことができる職場」の実現に向け労働安全衛生活動を推進しています。

2) 労働災害

・当社グループの労働災害発生件数

2018年度の労働災害の発生件数は2017年度と比べて休業災害、不労災害共に増加しています。当社グループでは、このような状況を改善するために管理監督者の率先垂範による安全活動の実践、安全な人づくり（危険に対する感性の向上）、安全な場づくり（安全で働きやすい職場環境づくり）などを掲げ、具体的な活動計画に基づいて労働災害の防止に向け取り組んでいます。また社長、事業部長による国内すべての製造工場を対象とした安全パトロール、管理監督者・新入社員等を対象とした安全衛生教育などに注力すると共に、製造現場では指差呼称、ヒヤリハット・キガカリ提案、危険予知活動、リスクアセスメントの徹底など日常的な安全活動を通して安全な風土づくりに努めています。

		実績値								
		2010年	2011年	2012年	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年
休業災害発生件数	単 独	0	1	2	1	1	0	0	0	2
	グループ会社	0	0	1	1	0	3	2	2	4
	連 結 合 計	0	1	3	2	1	3	2	2	6
不 休 災 害 件 数	単 独	3	3	2	1	6	5	3	1	4
	グループ会社	1	1	1	1	0	1	2	2	6
	連 結 合 計	4	4	3	2	6	6	5	3	10
休業災害度数率	単 独	0	0.63	1.25	0.66	0.65	0	0	0	1.26
	連 結 合 計	0	0.35	1.34	0.93	0.46	1.05	0.67	0.63	1.72
	(参考)製造業平均	0.98	1.05	1.00	0.94	1.06	1.06	1.15	1.02	1.20
全 災 害 度 数 率	単 独	1.97	2.53	2.50	1.31	4.52	3.30	1.97	0.64	3.76
	連 結 合 計	1.81	1.74	2.69	1.86	3.22	3.14	2.35	1.57	4.58



・環境・安全大会

2019年3月、延岡本社にて第15回全社環境・安全大会を開催しました。

当社グループの2018年度労働災害、重大ヒヤリ及び交通事故の発生件数は増加に転じており、安全教育の指導不足、体調管理の不備、安全な職場環境の未整備、5Sの徹底不足など従来の安全衛生活動の抜本的な見直しが必要であることを再認識する機会となりました。さらに社員の一人ひとりが相互に啓発することによる安全文化のさらなる向上を図り、安全で働きやすい職場環境を実現するために、労働安全衛生管理、及び健康管理について意識改革の仕組みづくりを進めていきます。



第15回全国安全大会の様子

この安全大会では、宮崎労働基準協会の方を招いて「労働災害の防止について」をテーマとした安全講演を開催しました。労働災害の発生要因と再発防止対策などさまざまな事例を引用しながら、「破れ窓理論」を紹介していただきました。また労災での悲惨な現状の実体験を交えて話され、労働災害は絶対にあってはならない、と改めて考えさせられる講演でした。



第15回安全大会 安全講話の様子

ドリコ株式会社では2018年6月、「ドリコ 安全と健康を守る会 定時総会」及び「ドリコ株式会社安全大会」を開催しました。当日は多くの協力会社様にご参加いただき、安全大会では安全衛生・品質管理室長による安全講話、安全表彰、及び安全標語の投票結果が発表され、安全宣言（安全の誓い）が行われました。



ドリコ株式会社安全大会の様子

・経営者による環境・安全パトロール

2018年4月～6月に「経営者と共に組織的・系統的な安全マネジメント体制を確立する」をテーマとして当社の国内すべての製造工場を対象とした社長安全パトロールが実施され、全社の労働安全衛生活動方針に基づいた各工場構内での実践状況や最近の事故災害等に関する対策についての報告がなされました。

また、2018年10月～11月に事業部長安全パトロールも実施されました。



環境・安全パトロール（延岡工場）



環境・安全パトロール（愛知工場）



環境・安全パトロール（栃木工場）



環境・安全パトロール（広島工場）

・安全教育の実施

当社では安全教育を国内事業所から海外関係会社まで幅広く展開することを推進しており、6月には中国関係会社への安全査察、及び安全教育を実施し社員の安全意識を高めました。



安全教育の様子（樹脂南通工場）



工場全景（樹脂南通工場）



安全巡視の様子（閩門上海工場）

・ 5 S 発表会

5 S（整理・整頓・清掃・清潔・躰）の真の意味を、当社中国工場の従業員にも深く理解してもらうため勉強会を開催した後、実践会・発表会も実施しました。



5 S 発表会の様子（樹脂南通工場）

3) 社員の健康促進

・ 健康教室の開催

当社愛知工場では愛知県丹羽郡扶桑町の保健センターと連携し、保健師を派遣していただいて社員の健康保持増進のための健康教室を開催しています。 定期健康診断の受診後のタイミングに合わせ、3回にわたり以下の3つのテーマを取り上げました。

- ・ 第1回：健康診断個人票の見方について
- ・ 第2回：健康増進のための簡単は運動について
- ・ 第3回：食事生活の改善について

この講習会により社員の健康に関する意識も変わり、最近では健康診断での有所見率の低下もみられます。



健康教室での聴講の様子



簡単な運動の様子

4. 保安防災への取り組み

1) 保安防災に関する基本方針

当社グループは、安定操業の維持と保安防災管理のレベルの向上に努め、従業員と地域社会の安全を確保するために保安防災活動を推進しています。 その一環として主要拠点でのBCP（事業継続計画）の構築に取り組むと共に、緊急時対応のための訓練も実施しています。

2) 取り組み事例

・保安防災活動

当社では事業所ごとに防火・防災訓練を定期的実施しています。 これは事業所の自衛消防隊組織の確立を図ることを目的に、当該自衛消防隊としての消火活動に必要な知識や技能を習得するものです。

延岡工場・愛知工場では2019年3月に延岡市消防署、及び丹羽消防署の指導のもと消防訓練を実施し、当日は器具取扱い講習、消防ポンプ取扱い講習、火災想定訓練、機械器具点検訓練、救命訓練を行いました。

また、中国の樹脂南通工場でも同様の訓練を実施しました。



消火器取扱い説明の様子



救命訓練の様子



中国の旭有機材樹脂有限公司での防災訓練の様子

・シェークアウト訓練

当社では、地震などの自然災害に備え緊急地震速報装置を設置しており、緊急地震速報訓練と連携した「シェークアウト訓練」を定期的実施しています。 これは地震が発生したときに安全確保行動1-2-3「まず低く、頭を守り、動かない」を身につける訓練であり、いざという時に備えておくために必要不可欠なことです。2018年も例年通り消防庁などの行政機関の呼びかけに応じ11月に実施しました。



シェークアウト訓練の様子

5. 製品安全への取り組み

1) 製品安全に関する基本方針

当社グループは、経営理念のひとつに「お客様の信頼が命です」を掲げ、お客様に信頼され、満足していただける製品・サービスの提供に努めています。より優れた、より安全な製品・サービスの提供を通じて、人びとの幸福と社会の発展に寄与することを目指しています。

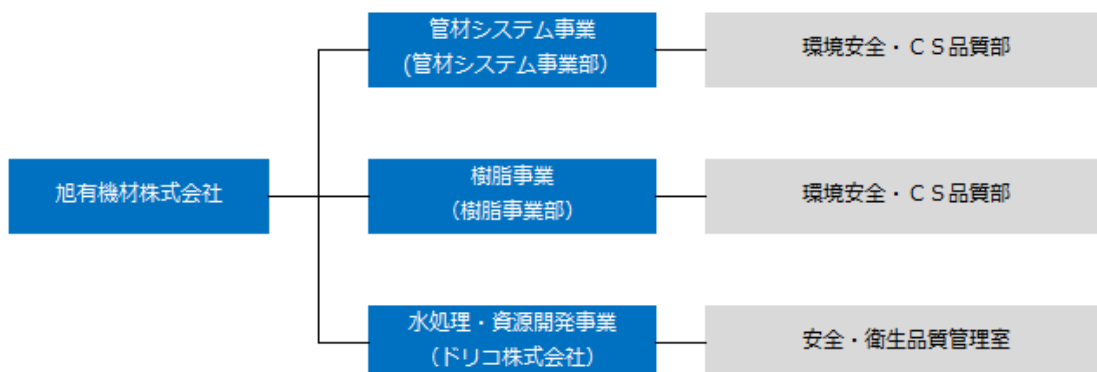
製品安全に関する基本方針

顧客の信頼と満足が得られる、より優れた、より安全な製品の創出を通じて、人間の幸福と社会の発展に寄与する。

- 顧客の立場で製品を開発すること
- 技術を錬磨し、品質管理を徹底して、ものづくりをすること
- 製品を正しく安全に使っていただく営業を実践すること
- 製品がその効用を終え、廃棄されるまでのすべての段階における環境と安全に与える影響を配慮すること

2) 製品安全に関する社内推進体制

当社は、事業部に品質保証部門を設置し、ISO9001 品質マネジメントシステムをベースに品質保証・製品安全体制を構築し、お客様のお役立ちを第一に考えるものづくりに取り組んでいます。



3) 製品安全に関する取り組み

・行為保証・品質工学による取り組み

延岡工場では、2011年より「行為保証」への取り組み等を通して品質トラブル撲滅を推進した結果、製造品質をより一層強化することができました。更に工程の上流である設計・開発に起因するトラブルを撲滅するために、2018年9月より「品質工学」への取り組みをスタートしました。社外専門家である株式会社ジェダイト鶴田明三講師をお招きし、毎月品質工学インハウスセミナーを開催しています。



鶴田明三 講師



品質工学受講の様子

6. 地域・社会との協調と共生

1) 地域・社会との協調と共生に関する基本方針

当社は「法と社会規範を守り、社会と共に歩みます」の経営理念のもとに、積極的に地域との交流活動を行っています。

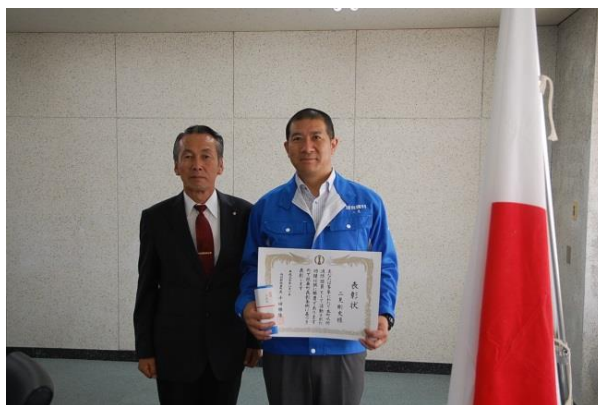
2) 取り組み事例

・愛知県丹羽郡扶桑町の治安維持功労者表彰の受賞

当社は地域の消防団活動に積極的に関与しており、その活動が認められ愛知工場の社員が地元扶桑町の「治安維持功労者表彰」を受賞しました。15年間の消防団員としての活動が評価されたもので、扶桑町内で建物火災が発生した場合の消火活動、近隣の河川や用水から水害が発生した場合の河川の見回り、避難誘導、行方不明者が発生した場合の捜索などその活動は多岐にわたります。



消火訓練の様子



扶桑町長との記念撮影

・家族の職場参観日の開催

当社はオープンファクトリーの一環として従業員の家族による職場参観日を開催しています。

延岡工場にて2019年3月に開催した職場参観日には30家族87名の皆さんが来場され、両親の働く姿、仕事の内容など普段はなかなか経験できないひと時を過ごしていただきました。



工場見学の様子

・マレーシアからインターンシップ生受け入れ

社会貢献の一環としてインターンシップ制度による学生の受け入れを積極的に行っています。

本年は延岡工場で、4年制大学のマレーシア日本国際工科院に通う2人のインターンシップ生を受入れました。研修では実習を通して当社の品質管理手法について理解を深めてもらい、研修の最終ステップでは日本語と英語を交えたプレゼンテーションに挑戦していただきました。このインターンシップ生の受け入れは、当社従業員にとっても異なる宗教や文化などの多様性を理解する良い経験となりました。



インターンシップ生実習の様子

・ 応急手当普及員としての活動

通報から救急車が到着するまでの間に救命処置を行う「応急手当普及員」の資格を取得している当社愛知工場の社員が「応急手当普及員講習」の開催の支援を行っています。今回は愛知県の扶桑町立小学校の5年生にAEDの使い方など、救命救急法の指導を支援しました。



応急手当講習の様子

・ 献血活動

当社延岡工場では国内で使用される血液製剤のすべてを献血により賄うという国の方針に沿って取り組んでいる宮崎県赤十字センターの献血推進活動に協力しています。延岡工場構内で2018年9月に献血を行い50名の目標に対して60名が受付し、52名がそれぞれ400mlの献血を実施しました。



献血の様子

・ 藤前干潟の不法投棄ごみと漂着ごみの撤去

2018年10月に愛知県産業廃棄物協会が行政機関との連携で行う「藤前干潟不法投棄ごみ撤去作業」が例年通り実施され、当社愛知工場の社員が参加しました。

藤前干潟は愛知県の西部に位置し、伊勢湾に残る最後の大規模な干潟で、シギ・チドリ類やオナガガモ・スズガモのカモ類などの渡り鳥の飛来地として有名な場所です。2018年度から継続しているごみ撤去活動ですが、大量の不法投棄ごみや漂着ごみは依然として存在し、藤前干潟の大きな課題であります。約2時間の撤去作業で燃えるごみ約1.9トン、燃えないごみ約1.6トンの他に、処理施設にもちこめないごみ（タイヤや冷蔵庫など）を撤去しました。



藤前干潟の景観



撤去の様子

・新「ゆうきの森・上三輪」第1回植樹活動

当社は宮崎県が取組んでいる「企業の森づくり」に2008年より参画しており、第二期植樹活動として延岡市上三輪町（かみみわまち）での森林整備に取り組んでいます。

2018年4月に第1回植樹活動を開催し、ヤマザクラとモミジをそれぞれ1,425本ずつ植樹しました。最終的には8,250本を植樹する予定です。

宮崎県の算定によると「ゆうきの森・上三輪」の二酸化炭素吸収量は144.35トン-CO₂と見込まれています。



ゆうきの森・植樹現場



植樹活動の様子



植樹活動参加者

・地域の夏祭りへの参画（宮崎・栃木）

当社の宮崎県延岡地区、栃木工場では地域活性化活動の一環として夏祭りに参加しています。

宮崎県延岡市の「第42回 まつりのべおか」は2018年7月に開催されました。まつりのべおかには当社社員104名が参加し、「ばんば踊り」を踊り、太鼓競演会や花火大会なども開催されました。

また、栃木工場がある栃木県大田原市では「第38回 与一祭り」が2018年8月に開催され、32名の当社社員が参加し「与一踊り」を踊りました。



まつりのべおかの様子



大田原市与一祭りの様子